

娘の可能性を引き出してもらえました！

M・S（中3女子保護者 2026年3月記す）

アサヒキャンプに初めて参加したのは、小学6年生になる直前でした。新聞でアサヒキャンプの記事を見たことがあり、興味はありましたが、連絡をする勇気がないままでした。

小さい頃の療育で出会った友人に5年ぶりに会った時に、アサヒキャンプに通っていることを聞き、今連絡しないと後悔すると思い、参加させていただくことにしました。

6年生では修学旅行もあるので、その練習になればいいなと思いました。（5年生の時の課外活動はコロナの影響で日帰りでした。）

まずはマイスペースから。時間内で本人がやりたいことを全力でやらせてもらい、いつもほめてもらいました。でも、その頃の私は、まだ学生と遊ぶことだけで、何か変わることがあるのかとまだまだ疑心暗鬼でした。（すみません。）

マイスペースから楽習会になると、みんなの前で発表することになりましたが、なかなか話せず、質問に対しても語彙が少なく、成長がみられないままでした。

今思うと、本人が楽しんでいるのに、私は何かの結果を、成長をいつも願い、求めていたような気がします。帰りはいつも「今度は、もっと顔を上げようね」とか、反省会でした・・・。

毎回、前回と同じような小さな声での発表が続き、それを見るのがつらく、楽習会への足取りはいつも重かったです。

キャンプもお友達や学生さんたちのこともよく分からず、「どうだった？」と聞いても「楽しかったよ」というものの、話は広がらず、キャンプ後の感想も内容もなく、文章や絵を描くことがとても苦手だったので、思い出を書くことができませんでした。楽しいかどうかもわからず、行かせることに積極的ではなかったように思います。

変化が現れたのが、中2の夏に2泊3日の夏いろキャンプに参加した時ぐらいからです。2泊のキャンプということで、荷物の準備など分からないことだらけで、心配でしたが、戻ってきた時の疲れているのだけれど、とても充実した顔に驚きました。実際、キャンプでは学生さんたちに、たくさん助けていただき、かなり甘えた部分もあったようでしたが、初めて「次のキャンプも行きたい」と言ったので、「あー、楽しかったんだなー。」と安心しました。学生さんたちに教えてもらった課題を家でも練習し、中2に課外活動に元気に参加することができました。キャンプで仲良くなった学生さんが楽習会で、優しく声をかけてくれることが増え、以前より楽しそうに通うようになりました。

語彙力が少なく、なかなか気持ちを伝えることができなかつたのですが、学生さんのやさしさに触れ、自分の気持ちを伝えたいと思うようになったのか、少しずつ楽習会の帰りに、その日の出来事を話してくれるようになりました。お友達の発表を参考に、少しずつみんなの前で話す声が大きくなっていきました。

キャンプで、ビーズを作ったことがとても楽しかったようで、家でも作りたいと言い出したり、学生さんへプレゼントしたいから、次のキャンプに持っていくと言い出したり。

この頃から、自発的に何かをしたいと言うことが増えました。今まで予定にあまり興味がなかつたけれど、「次の日曜日はアサヒキャンプでしょ？」とか、「あと3日でアサヒキャンプだね」などと、カレンダーで予定をチェックするようになりました。

なかなか学校やお出かけの準備に取り掛かることができなかつたのですが、アサヒキャンプに行く準備は、いつの間にか、自分でやるようになりました。楽習会のおかげなのか、嬉しいことがあると、「学校で明日の帰りの会で発表してみる」と言うようにもなりました。この発表は、順番というわけではなく、自発的に手を挙げて発表する形式なので、まさかそんなことができるとは、本当に驚き、嬉しく思いました。

喜怒哀楽を上手く表現することも苦手でしたが、悲しいときに、涙を流す、悲しいことを相手に伝えることができるようになったのも、大きな成長でした。学生さんとの時間の中で、自己肯定感が高まり、恥ずかしさや間違えることを恐れてできなかつたことも、やってみる！という気持ちが出てきたのだと思います。

親の私は、何かをすれば成果を求め、私基準の正解を娘にも求め、彼女自身を見ることができなかつたのだと思います。いつも何かと比べ、成長しているのにまだまだだと、否定的な捉え方しかしていませんでした。でも、キャンプ後の学生さんからは、「周りをよく見て行動してくれています」とか、「年下のお友達にやさしく手伝ってくれていました」など、自発的に参加している様子を伝えてもらえて、彼女だけではなく、親の私も学生さんから学び、教えられることがいっぱいでした。

学校以外に彼女の居場所ができ、精神的な部分で成長させていただいたアサヒキャンプには、感謝しかありません。

私の気持ちが前向きになれたのは、他の保護者の方々と話をするようになったことが大きいです。落ち込んだ話をすると、共感していただいたり、応援していただいたりするので、日々のもやもやした気持ちを忘れ、また頑張ろうと顔を上げることができました。

親子共々、アサヒキャンプには心からお礼を伝えたいです。